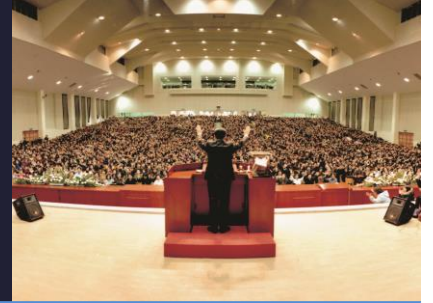


恵みと真理のニュース



2018 年 5 月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

今も奇跡的で働いて生きておられる神様に感謝と賛美と栄光を捧げます。

私は親の篤実な信仰で神様を仕える家庭で生まれ、子供の時から礼拝中心の教育を受けながら育ちました。真に良い神様は私が祈るよりはるかに与えてくださり、艱難がある時、助けて恵みで勝利するように導いてくださり、苦難を通してもっと純金のような信仰を与えてくださいました。

私は恵みと真理教会の結婚情報センタを通して夫に出会って結婚するようになりました。すぐ妊娠してその翌年長女を出産しました。しかし、出産の直後、深刻に血を流して大学病院に緊急に運ばれて子宮動脈即選術の施術を受けるようになりました。当時、私の体の1、5倍になる25パックくらいの血を輸血を受けて、数次、危険な状態だったと担当教授から言われました。そんなに大変に初めの出産をしたから二番目の子を考えなかったですが、子供がくれる喜びが大きくて一人より二人が良いと思ったのに二番目の子を求める祈りを始めました。神様は二番目の子供を妊娠するように導いてくださいました。ところが、妊娠17週になった時、原因不明の羊膜破裂で羊水が漏れてしまう想像も出来ない事が起こりました。大学病院では妊婦が打っても可能な一番強い抗生剤を打って胎児と妊婦の感染を防ぐしかなかったです。破損された羊膜を埋める事も出来ない状況でした。羊水がなくて妊娠を維持するのはやさしいことではなかったです。このように早い

時期に羊膜の破裂で羊水が少しも残らない場合は自然的に陣痛が来て 分娩が行われているか、誘導分娩を行う場合がほとんどであり、分娩と同時に胎児の生命を失うことがほとんどでした。 医学的に少なくとも24週間はなつてこそ、生存が可能な週でした。

このような晴天の霹靂のような状況に私は涙が出ました。子供を生かすため私がやるべき雄一な方法は食事をする時とトイレに行くとき以外には一日ずっと横になって神様に祈るしかなかったです。私たちのため多くの方々が涙を流して祈ってくださいました。当会長の牧師も天地を創造した神様、不可能を可能にさせる神様、助けてくださり、医者達に適切な治療をしてくださり、特別な神様の助けて敗れた羊膜が奇跡的に埋めて羊水でいっぱいになって全てが正常で回復され神様がなさったと感謝し証する人生になるように祈ってくださいました。

本当に神様の奇跡しかない今の状況で胎児が健康に成長する方法がまったくなかったです。訪問した大教区長の牧師が会党長のヤイロの娘の御言葉を伝えてくださいました。“恐れることはない。ただ信じなさい。なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。”という御言葉が私と胎内にいる胎児に聴いてくださる神様の御声に聞こえました。入院して2週が過ぎても羊水はまったくなくて下血と陣痛で分娩の危機も数回ありました。そのときことに神様が強い手で私と胎児を守ってくださいました。

ある日から羊水が少しずつ溜まり始めました。まるで、エリヤが長い間日照り雨が降るのを願って常に祈りをするうちに御使いを通して見た小さい雲が日照りを解消する大きい雨雲になるのを確信したように、溜まっている少ない羊水がいっぱいになったようでした。

本当にその日から奇跡的に羊水が少しずつ溜まり始めて22週には羊水がいっぱいになる驚く奇跡が起こりました。医師達もこんな場合は珍しいと奇跡のような事だと話しました。ハレルヤ！

その後28週に退院をして3週ぶりに羊水がまた漏れる症状で入院するようになりました。その夜多く下血をして分娩の危機がありましたが、心配と恐れるよりむしろ感謝と祈りと賛美が私の口から出ました。パウロとシラスが酷くむち打たれて刑務所にいる時、恨みと不平ではなく祈りと賛美を通して神様の栄光を捧げた状況が思い出しました。妊娠17週に羊水がまったくなくて病院に運ばれて来たが、奇跡的に羊膜が再び防いで羊水がいっぱいになって胎児が健康に成長して今、31週がなった今を考えながら神様に感謝する祈りと賛美が自然に出ました。今、分娩をすると赤ちゃんが治療を受けるので苦労しますが今まで導いてくださった神様、一番よい時に一番良い方法で分娩まで導いてくださる事も信じる信仰を持つようになりました。そのように危うく3週か過ぎて34週3日になる日、私は、誘導分娩で2、23kgの比較的に健康な子供が生まれました。奇跡はこのように現在を生きる私たちにも起こっています。まったく、不可能だと思う状況でも神様がお働くなれば可能になる奇跡を体験しました。私と赤ちゃんの健康のため涙を流しながら祈ってくださいました全ての方々に感謝します。この全てが神様の恵みです。私たちの祈りで一番よい時に一番良い応答くださる神様、命の主になる神様に感謝と賛美と栄光を捧げます。ハレルヤ！



【信仰コラム】

持続されるべきの神秘体験

”そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」...”（ヨハネによる福音書 6：65～69）

理論と認識を超越する不思議なことを指して神秘だと言います。聖書には神秘的な話がたくさんあります。キリスト人は神秘体験が日増しに累積される生活をします。キリスト人に必ずあるべきで持続されるべきの神秘体験について調べてみます。

第一は、イエス様を自分の救い主として信じ、迎接する神秘体験です。

イエスキリストを信じる皆さんの中には容易く信じた方々もいて、とてもしんどく信じた方々もいらっしゃるでしょう。どの場合でありイエスキリストを信じる人は相当な神秘体験をしたのです。イエス様を自分の救い主として信じて迎接したのが神秘体験に属する理由は、このことが神様の恵みによるからです。イエス様を信じることは神様の絶対主権と選択によるのです。このような事実がエペソ人への手紙 1 章 3 節から 6 節まで次のように記録されました。“...みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を受けけるようにと、御旨のよしとするとところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである...”

見たこともないイエス様を自分の救い主として信じて迎接することは平凡なことではありません。正確に話すとは信じるのではなく、信じられるのだと言えます。なので驚くべきな神秘です。

第二は、相変わらずイエス様を信じて愛する神秘体験です。

イエス様を信じる根本理由が救いを得るためであるべきです。言い換えると、とこしえの命を得るためのことであり天国に入るためのことであるべきです。天国は話さない福音は福音ではありません。この世には多くの宗教があって教えがありますが、それは天国福音ではありません。贖いの死を死なれてお墓から復活なさったイエスキリストだけが私達にとこしえの命と天国を与えてくださいます。死後の生活と居所に関する誠な知識は聖書を通じてだけ知ることができます。死後世界に対する体験談を話す人々は過去にもいて、現在にもいます。このような個人的な神秘体験を聖書の記録のように受け入れたり、信じてはなりません。死後世界に関しては聖書に啓示された御言葉の中で知識と信仰を持つようにしなければなりません。天国が北極星の北側あるいはこの狡猾な宇宙のある所にあつたり、それでもないと私達が考える宇宙と異なる次元であつたりそれが重要なものではありません。重要なのは主イエスが備えられた栄光で燦爛な天国が実際に存在するという事実です。天国は実在する居所だけではなく、この世で私達が経験するある所や状態では比較できない美しく楽しく、満足のある所です。天国を見たこ

とがなくても聖書に記録されたので信じる聖徒が幸いです。福のある人です。

イエス様の弟子になるために熱心に従った多くの人々が自分達が考えて願うこととは異なることを言われて、これを信じるようおっしゃると拒否感を表示しながらイエス様を離れました。しかし、とこしえの命を得るために、天国に入るためにイエス様を信じる人はイエス様を離れません。聖書と違うことを話す思想と教理を断固として排斥すべきです。信者達を攪乱させてキリストの福音を歪曲しようとする人々に影響を受けてキリストの中で私達にとこしえの命と天国を与えようと呼ばれた神様を離れる人々がいます。終末が近づくにつれて私達が大々的な背理現象を見るでしょう。現在の時代がそうであります。このような風潮と趨勢に私達が荒らされず、相変わらずにイエス様を信じて愛することはとても神秘的なことです。これは私達の努力と意思だけで可能なことではないからです。神様の選択と聖霊の支えてくださる恵みなしにはできないことです。

人が経験する神秘体験の中で最も貴重な神秘体験はイエス様を自分の救い主として信じて迎接するようになったことと相変わらずにイエス様を信じて愛することです。皆さんは、このような神秘体験をしているという事実をととても重大に扱って、これによる神霊な喜びと感激を享受しながら生活するよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

親の恵みと子供の敬え



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人が使用する単語の中、非常に美しく感動的であり、尊い言葉は恵みという言葉と愛という言葉です。人が体験することができる最も崇高な恵みと愛は、その第一は、神の恵みと愛であり、第二には、両親の恵みと愛です。人が感じて所有することになる幸せの深さは、まことにこのような恵みと愛の体験の深さと比例します。これらの恵みと愛を悟って感謝する意を積極的に示すことは、私たちに許された神聖な義務であり、特権です。今日は、子供に向けた親の恵みと愛について見てあわせて親を敬うの理由と道理について説明します

第一は、母の恵みと愛について見てみましょう。

親の恵みと愛は無条件的なものです。理性と言い詰めは到底に愛することができない子であっても、親は、そんな子のために涙を流して目を閉じるまで尽くして心配します。私たちは、ダビデ王の生涯が記録された聖書を通して子の親の愛のなみだの記事を読むことができます。ダビデ王の息子アブサロムは外見が優れていたけれども彼の心の中に悪い思いがいっぱいいました。彼は父の王位を奪うために、ヘブロンで軍事を集め、エルサレムの宮殿に攻めました。ダビデ王は息子と向き合う戦うことができないので慌て逃げてヨルダン川を越えてマハナインまで避難しました。エルサレムに無血入城をして王宮を占拠したアブサロムは、全国で軍事を募集して強力な軍隊を組織した後、直接陣頭指揮して、ダビデ王に沿って行った軍事を打とうと出ました。マハナインで戦列を整えたダビデ王が反乱を鎮圧するために軍隊を送りながら、軍隊の將軍たちに、「私の息子アブサロムを寛大にもてなしてください。」と切々と指示しました。いよいよ二編の軍事がエフライムの林から猛烈に戦ったのに、アブサロムの兵士たちが、ダビデの部下たちに敗れました。反乱を指揮していたアブサロムが馬に乗って進み、彼の長い髪が樫の木の枝に絡み付いてしまいました。乗っていた馬は抜けてアブサロムは木に髪がかけられて空中に架けました。この時、ヨアブがアブサロムの心臓を刺した。これで反乱は鎮圧されました。ヨアブが送くる者がマハナインに走って行って、ダビデ王に勝利のニュースを知らせていました。ダビデは使者に尋ねました。「私の息子アブサロムがよくいるのか？」その伝令はアブサロムが死んだと答えました。ダビデ王は胸が張り裂けそうに「王はひじょうに悲しみ、門の上のへやに上って泣いた。彼は行きながらこのように言った、「わが子アブサロムよ、わが子、わが子アブサロムよ、ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ」」（サムエル記下 18:33）で号泣しました。これがすなわち親の心です。息子はそれほど親に不孝して、不良しても子に向けた両親の愛は変わることができないものです。

親の恵みと愛は、子のためにいろいろな種類の犠牲に耐えし、子のために最善を尽くしています。その中でも、母の愛はさらに強烈とします。優れた人物の背後には、優れた母がいます。米国が生んだ 19 世紀の偉大な伝道者 D. L. ムーディーズは 40 年も満たない伝道に約 5,000 万人に福音を伝え、100 万人を救いの道に導きました。ムーディーズの父親は 1841 年 5 月に 41 歳でこの世を去りました。夫を失ったベトシ夫人は、貧しい暮らしに 7 男 2 女を育てしようとして非常に苦勞をしました。彼を同情する人が、この救済のために子供を養子に送くると勧めました。しかし、ムーディーズの母親は子供を他人の家に養子に送ると腹はいっぱいにするのができませんが、信仰心を植え付けることは難しいことを知ってどのような苦難と誘惑にも揺れません。ムーディーズの母親は子供を信仰の中で育てています。ムーディーズの母親が 93 歳でこの世を去ったとき、その葬儀式でムーディーズは述べました。「もしすべての人が私の母のような母を持つことができる場合は、この地には、刑務所が必要ないし、また、世界の人がこのような母の養育を受けた場合私のような人ができない者がいないだろう。」しました。親の愛と恵みはいつの時代、どの民族にも相違がありません。このように、親の子供への愛は、人間のために神から与えられた偉大な贈り物であり恩寵です

第二には、子供が親を敬うする理由を見てみましょう。

第一、人が親を敬うことは、人間の本性で湧き出すことです。いつの時代、どの社会でも、親を敬うの制度と教えていることを見たときに、親を敬うのは、神が与えられた人間の本性から出たものです。第二、親を敬うの道理は、神から与えられた法であり、戒めです。神はすべての人が守って行すべき本分になる 10 戒めを与えている。1 命令から 4 命令まで人間が神との関係で守らなければならない戒めです。5 命令から 10 命令まで人間関係の戒めです。ところで、人間関係の命令の中に、その第一は、「あなたの親を敬え」という言葉です。親を敬うことは、神の戒めであるから、子どもは必ず親を敬う必要があります。第三に、聖書には、親に不孝する子の呪いと罰について記録されたレビ記 20 章 9 節に記録されるのを「**だれでも父または母をのろう者は、必ず殺されなければならない。彼が父または母をのったので、その血は彼に帰するであろう**」しました。第四に、親を敬うには神様が与えられる祝福の約束があります。親の敬いは神様が与えられる福を受ける皿です。今日の本文に「**子たる者よ、主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。あなたの父と母とを敬え**」これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、「**そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう**」（エペソ人への手紙 6:1-3）しました。第五に、両親の愛と恵みについて感謝しお返しすることは人の道理です。子が両親の愛を身に受けても、これを無視してしまうなら、獣よりよいのが何でしょうか。人であれば当然、親を敬う必要があります。

第六に、自分を生んで育つ両親なので、敬う必要があります。母親は子供を身ごもって 10 ヶ月の間に不便で大変な日を耐え出産の危険と苦痛を経なければなりません。解散後も塗れたものを乾燥ものに替えて苦勞します。親は、子を養育するために一生涯心配し手間を惜しまない。どんな事情で、自分が産んだ子がなくても生んだ子の以上に育てる親は多分もっと敬う受けるのに値します

第三には、親を敬うにふさわしい態度を見てみましょう。

第一、生活力がない親を子は丹念に鳳陽する必要があります。第二に、親に感謝の意を積極的に表現してください。言葉で感謝を表現します。犠牲を通して感謝を表現します。第三に、両親の言葉を聞き、従うので、心を喜しくようにします。第四に、両親が神をよく仕えるよう助けさせます。イエス様を信じていない親には救い得るように全力で支援させます。人が一生涯生き、死んで滅亡して地獄の火に永遠に苦しむように悲惨なことはありません。したがって、親にしなければならない最も大きいことは信じていない親をイエス様に導くことです。罪の赦して、永遠の命を得て、神の子になって、天国の市民になって、将来に天国で永遠に生きるように、導きしなければなりません。イエスを信じる親には、主に仕えることに積極的に参加するために役立ちさせます。残りの生涯に礼拝も多く参加することができる機会を作って、聖徒たちの集まりにも積極的に参加することにして、献金もできるようにする必要があります。そして、主の前に立つとき恥ずかしくない賞賛と報いを受けるという期待を持つように助けてささげます。聖徒の皆さん、両親が生きていた時、親に孝行してください。人は彼がこの世に存在する瞬間から、神との関係が開始されます。そして世の中に生まれて最初に結ぶ人間関係がすなわち両親との関係です。両親との関係は、すべての人間関係の根本であり、基礎である。両親との関係を正しに持っているのが必要です。すすれば、他の関係も正しに持つことができます。人間社会における最も基本的なことは、神との関係と両親との関係です。神を恐れて両親を敬う人になることが最も重要な要件です。誰でも後悔なしに住む場合は、神を恐れず、両親を敬う必要があります。人生たちのために限りない恵みと愛を施される神を恐れて仕えまた、子のために熱い愛と恵みを注いでくださる両親を敬う必要があります

聖徒の皆さん、限りない愛と恵みを施される神を心と思いと性格と命を尽くして恐れて愛して仕えましょう。また、主にあって両親を真に敬うして生きて行かれることを願っております。